

京都市地区小学校教科書選定委員会 答申

「外国語科」について、以下の観点に基づき、発行社ごとに教科書を調査・研究した。

選定の観点

- 1 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る工夫・配慮がされていること。
- 2 適切な場面設定のもと、既習事項等を活用しながら、言語活動を行うための思考力・判断力・表現力等を育成する工夫・配慮がされていること。
- 3 相手や他者の理解に配慮するなど、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働きかせ、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う工夫がされていること。
- 4 5領域別の目標と学習内容を効果的に関連付ける工夫がされていること。
- 5 外国語やその背景にある文化に対する理解を深め、日本語と日本文化の豊かさに気付く教材や活動が適切に取り上げられていること。
- 6 単元構成の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等との関連、また他校種等との接続について配慮されていること。
- 7 基本人権の尊重や道徳性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。
- 8 表記や表現について、文章や挿絵、写真等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成などについて配慮がされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

調査研究の結果の概要

■東京書籍「NEW HORIZON Elementary English Course」「Picture Dictionary」

学年別でのテーマ設定（5年生：「日本に暮らすわたしたち」，6年生「世界に生きるわたしたち」）や、3・4年生での外国語活動や中学校外国語科との接続を意図した補充・発展学習とともに、自学自習や中学校での復習等に活用できるよう別冊が用意され、継続的な学習が展開できるよう、工夫され、優れている。また、5年生当初に「あなたが英語を使って将来したいこと」を、6年生の学年末には改めて、「将来、英語を使ってどのようなことをしてみたいか、話し合おう」で考察するなど、児童が生涯にわたって継続して英語を学ぼうとする態度を育成する上での工夫がみられる。

各単元においては、学習到達目標が明示されているとともに、別冊には単元ごとの学習到達目標と振り返り欄が設定されており、児童が見通しをもちながら学習への意欲を高める工夫がなされるとともに、単元末では「Step1・2・3」と3段階の学習手順を具体的に示した言語活動が取り入れられており、基礎的・基本的な知識・技能の習得が図りやすいよう工夫されている。

また、言語活動に際しては、既習・新出表現等を活用し、その場でやり取りをする活動が豊富に設定されるとともに、発表前に話す文の順を入れ替えることや、発表内容に付け足して話す例等が示されており、児童が情報を整理して発表することができるなど、思考力・判断力・表現力等を育成する工夫が優れている。一方、単元末の活動が学年別に〔やり取り〕と〔発表〕に区別されているため、2学年間でそれぞれの力をバランスよく育成する指導がしづらく、また、文中の語句を書く活動や単語を並び替えて文を作る活動が少ないため、語順を意識しながら書く力を育成する上での工夫が不十分である。

各単元末に設定されている「Over the Horizon」において、外国の文化等に関する記述が充実し、外国と自分の生活とを比較する場面が設けられるとともに、比較を通じて、児童が言語の奥深さ等を考察できるよう3種類の教材が用意されるなど、優れている。また、補助資料にはミシン目があり、児童が扱いやすい。

■開隆堂出版「Junior Sunshine」

巻頭では3・4年生の外国語活動の振り返りが設定されるとともに、「ふろく」では中学校への接続を意識し、6年生の学習内容を項目ごとに振り返ることができるよう工夫されている。また、両学年とも、年度末に「あなたは、英語でどんなことができるようになりましたか」と問いかけるとともに、さらに6年生では「将来、英語を使ってどのようなことがしたいですか」と問うなど、児童が生涯にわたって継続して英語を学ぼうとする態度を育成する上での工夫がみられる。

しかし、各単元において、学習計画やめあてが示されていないため、学習の見通しをもちづらく、また、学年末の自己紹介や世界で活躍する自分になりきる言語活動等の設定が不自然で、児童に取り組む必然性を感じさせにくく、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図りづらい。思考力・判断力・表現力等の育成にあたっても、書く内容がすでに示されている発表原稿が多いため、思考しながら情報を整理し、自分の伝えたいことなどを形成する力には結びつきにくい上、語順を意識させる活動が「ふろく」として巻末に設定されているため、単元学習での活用が図れず、語順を意識しながら書く力を育成する上での工夫が不十分である。

5領域別の目標と学習内容との効果的な関連付けにおいては、聞いたり話したりする活動を踏まえ、語句や表現を書き写したり読んだりする活動が順を追ってできるように工夫されるとともに、多くの単元で「やり取り」後の単元末に「発表」を設定しているなど工夫がみられる。また、単元後の「文字に慣れよう」で活字体の読み方・書き方を学んだ後、音の認識を深め、単語の書き写しや読み、文の読みや書き写しと、文字と音の認識を深めるために系統的に学習できるよう構成されており、優れている。

また、単元導入時には外国と日本の行事等を比較するなど、児童の世界への視野を広げる工夫がなされている。

■学校図書「JUNIOR TOTAL ENGLISH」

5年生の単元学習前には「Pre-lesson」が設定され、3・4年生での外国語活動の復習ができるよう工夫されている。また、巻末では5・6年生の学習を振り返り、6年生最後の単元末で中学校での学習内容を知って今後の学習を見据えることで、児童が生涯にわたって継続して英語を学ぼうとする態度を育成する上での工夫がみられる。

単元導入にあたっては、観点別の単元目標や、ロードマップ形式での「学習の進め方」、学習進度確認欄が設けられているが、学習到達目標が併記されていないため、児童にとっては、「英語で何ができるようになるのか」が分かりづらく、学習の見通しが立てづらい。また、相手や他者の理解に配慮させる表記が特になく、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働きかせづらい。

各「Lesson」に設定されている「コラム」では、外国の文化や風習、その背景にある思いにふれ、児童が多様な考え方にはじまり、豊かな心情が育つよう配慮されているとともに、一つの物語を読み物教材として2学年間を通じて継続的に取り上げ、音声を聞きながら文字を追って読む活動ができるよう工夫されている。一方、「Lesson」内のセクションを組み合わせた言語活動が少ないため、対話を続ける力を育みづらい。また、書く内容がすでに示されている発表原稿が多く、思考しながら情報を整理し、自分の伝えたいことなどを形成する力を育成する上での工夫が不十分であり、単語カードを操作して語順を体感する等の工夫もみられず、2学年間で「やり取り」「発表」の力をバランスよく育成する指導もしづらい設定となっている。

■三省堂「CROWN Jr.」

各学年の巻頭には「英語で言えるかな」が設定され、3・4年生の外国語活動や5年生の復習が設定されるとともに、単元構成を「HOP」・「STEP」・「JUMP」で1ユニットとし、ユニットごとの「Presentation」では、既習事項を活用したやり取りや発表を行う構成となっている。また、発表については、対象をグループから学級全体と習熟を深める2段階構成とするなど、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得が図りやすいよう工夫され、優れている。

各「JUMP」末では「次は、どんなふうをして活動したいですか」と問いかげ、6年生最後には「中学校では、どんなふうをして活動したいですか」と問いかけるとともに、各学年の巻頭末には既習事項を振り返る場面が設定されており、児童が生涯にわたって継続して英語を学ぼうとする態度を育成する上での工夫がみられる。

「Lesson」や「Presentation」については、それぞれで「やり取り」「発表」を行えるよう工夫されている。一方、「Lesson」では、学習到達目標が示され、目標を達成するための言語活動

に向け学習が展開されているが、その過程が紙面からは読み取りづらい上、コミュニケーションを図る必然性を児童が感じづらい設定となっているものがある。また、新出表現等とあわせて既習事項も活用しながら、その場でやり取りをする活動が少ないため、対話を続ける力を育みづらくなっている。

書く活動においては、音声で慣れ親しんだ語句や表現を書き写す活動が設定されるなど工夫されているが、単語カードを並べ替えるなどの活動がないため、語順を意識しづらい。

「読むこと」・「書くこと」については、5年生当初や「ふろく」で活字体の読み方・書き方を学習するとともに、「Sound Chant」を経て「Enjoy Reading」で読むことにつなげるなど、文字と音の認識を深めるために系統的に学習できるよう工夫されている。また、「Enjoy Reading」はフォントも行間も拡大するなど、レイアウトの工夫がみられ、優れている。

日本文化を伝える活動や外国の文化を知る活動が設定されるとともに、世界の「ことば」を考察するコーナーも設けられている。

■教育出版「ONE WORLD Smiles」

各学年の巻頭には、年間の学習目標が明示され、単元導入においても学習内容もしくは学習到達目標が示されているが、学習計画やめあてが示されていないため、学習の見通しをもった主体的な学びにつなげにくい。また、複数単元の既習事項を活用する言語活動の設定がないため、基礎的・基本的な知識・技能の習得への工夫が不十分である。

一方、両学年とも年度当初に、児童自身が「あなたが英語ができるようになりたいこと」を記述する活動が設定され、児童が生涯にわたって継続して英語を学ぼうとする態度を育成する上での工夫がみられるとともに、小学校で学習したことを冊子「My book」の作成を通して振り返り、中学校でも自己紹介に活用できるなど、小中接続の視点で優れている。

思考力・判断力・表現力等の育成に向けては、新出表現等とあわせて、既習事項も活用しながら、その場でやり取りをする活動が設定されるとともに、児童が情報を整理して発表することができるよう、モデル文が複数示されたり、単元によっては話す文の順序等が異なったりするなど、工夫されている。また、多くの単元で【やり取り】後の単元末に【発表】を設定しているなど工夫がみられる。

読む活動においては、音声で慣れ親しんだ語句や表現を読むことや、他教科等でなじみのある物語を聞いて推測しながら読むといった活動に工夫がなされているが、書く活動においては、語順の違いに気付く活動が少なく、また、段階を追って書く力を育成する上での工夫がみられない。

「Let's Look at the World」において、外国の学校の様子や外来語等について取り上げられ、言語や文化を通じた世界とのつながりに気付けるよう工夫されているとともに、ワークシートにはミシン目があり、扱いやすいよう工夫されている。

■光村図書出版「Here We Go!」

1年間の学習と関連付けた領域別目標の提示や、単元末の学習到達目標と、そこに至るまでの段階的な学習到達目標(Hop→Step 1→Step 2→Jump!)が設定されるなど、児童が見通しをもって主体的に学習できるよう工夫され、優れている。また、児童が生涯にわたって継続して英語を学ぼうとする態度の育成に向け、巻頭で「英語を使ってできることを増やしていくまし

よう」と学習への意欲を高めるとともに、巻末のすごろくや「学びのパスポート」では、できるようになったことを確認したり、中学校の学習内容を具体的に知ったりするなど、よく工夫され優れている。

各単元においては、新出表現等と既習事項を活用しながら、その場でやり取りをするなど、単元末の学習到達目標を意識した言語活動が繰り返し設定されているとともに、各「Step」で音声に慣れ親しんだ語句や表現を一文書いた上で、発表に向けて原稿作成するなど、思考力・判断力・表現力等の育成に向けた工夫がなされている。また、「読むこと」・「書くこと」については、英語の詩や物語を読む活動や、単語や文を作る活動等が「Fun Time」として2学年間を通して設定されており、継続的・系統的に学習することで、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を推測しながら読む力、語順を意識しながら書く力の育成が図れるよう工夫され、優れている。

全体を通じて、5領域別の目標の達成に向け、聞いたり話したりする活動を踏まえ、語句や表現を書き写したり読んだりする活動が順を追ってできるとともに、5年生単元末に〔やり取り〕〔発表〕がバランスよく設定され、6年生は〔やり取り〕後に〔発表〕を設定している単元が多く、工夫がみられる。また、外国語活動の既習事項も繰り返し活用する単元構成の系統性や、文字練習用の補助資料など自学自習の充実を図る工夫がなされている。さらに、単元ごとの「World Tour」での動画視聴や「世界の友達」での既習事項を用いた言語活動等を通して、諸外国の文化等に対する理解を深め、物事の捉え方や考え方の多様性への気付きを促す工夫が図られている。

■新興出版社啓林館「Blue Sky elementary」

単元導入時には、学習到達目標が示され、単元末には「Part」ごとの学習到達目標に対する振り返りや記述式の振り返り等が設定されており、優れている。

学習内容の接続については、5年生冒頭の外国語活動の既習事項を活用した言語活動の設定や、6年生での中学校生活に関する単元では、部活動の絵カードで言語材料の練習ができるよう補助資料が工夫され、他校種等との連携が意識されている。また、2学年間を通じた全単元において、「英語で言いたいけど言えなかつたこと」・「もっと知りたいと思ったこと」・「学習した英語をどんな場面で使いたいか」といった振り返りが設定されているとともに、巻末の「CAN-DO List」においても領域別に到達状況を学年末に確認することができ、児童が学習の定着を意識しながら、生涯にわたって継続して英語を学ぼうとする態度を育成する上で、よく工夫され優れている。

言語活動を行うにあたっては、新出表現等にあわせて、既習事項も活用しながら、その場でやり取りをする活動が設定され、複数のモデル文や予備の欄があるため、児童が考えや気持ちなどを整理して発表することができるなど、情報を整理しながら考えを形成する力の育成が図れるよう工夫され、優れている。また、多くの単元で〔やり取り〕後の単元末に〔発表〕を設定しているなど工夫がみられる。一方、語順に関する学習が系統的に設定されていないことや、文中の語句を書き写す活動も限られているなど、語順を意識しながら書く力を育成する上の工夫が不十分である。

単元ごとの「Did you know?」において、外国の言語的・文化的な内容への気付きを促すとともに、多様な言語に関する視野を広げる工夫がなされているとともに、補助資料にはミシン目

があり、児童が扱いやすい。

※詳細の結果・データは、観点別資料及び観点別・視点別評価資料に記載。

選定の観点		選定の視点		東京書籍	開隆堂	学校図書	三省堂	教育出版	光村図書	啓林館
1 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る工夫・配慮がされていること。	1 言語材料の配列・系統性の工夫	○	△	○	◎	△	◎	○		
	2 単元終末に向けた学習計画やCAN-DO(学習到達目標)の明示	○	△	△	△	△	○	◎	○	
	3 言語材料の理解を深める工夫	○	○	○	○	○	○	○	○	
2 適切な場面設定のもと、既習事項等を活用しながら、言語活動を行うための思考力・判断力・表現力等を育成する工夫・配慮がされていること。	1 コミュニケーションを行う目的や場面、状況等の明確化・必然性の工夫	○	○	○	△	○	◎	○		
	2 既習事項等を活用し、その場で質問したり答えたりする言語活動[やり取り]の工夫	◎	○	△	△	○	○	○	○	
	3 情報を整理しながら考えなどを形成し、表現する活動[発表]の工夫	◎	△	△	○	○	○	○	○	
	4 語句・表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりする活動の工夫	△	△	△	△	△	○	○	△	
3 相手や他者の理解に配慮するなど、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働きかせ、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う工夫がされていること。	1 相手意識を働きかせる工夫	○	○	△	○	○	◎	○		
	2 児童が興味をもち、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながる工夫	○	○	○	○	○	○	◎	○	
	3 物事の捉え方や考え方の多様性に気付く工夫	○	○	○	○	○	○	○	○	
4 5領域別の目標と学習内容を効果的に関連付ける工夫がされていること。	1 練習と言語活動の関連付けの工夫	○	○	○	○	○	○	○	○	
	2 言語材料を言語活動と効果的に関連付け、活用する技能を身に付ける工夫	△	○	△	○	○	○	○	○	
	3 活字体の読み方・書き方の指導と、文字と音の認識を深める工夫	○	◎	○	◎	○	◎	○	○	
5 外国語やその背景にある文化に対する理解を深め、日本語と日本文化の豊かさに気付く教材や活動が適切に取り上げられていること。	1 外国語の背景にある文化への理解を深める工夫	◎	○	○	○	○	○	○	○	
	2 日本や地域の良さを気付くことができる工夫	○	○	○	○	○	○	○	○	
6 単元構成の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等との関連、また他校種等との接続について配慮されていること。	1 単元構成の系統性・発展性	○	○	○	○	○	○	○	○	
	2 他教科等との連携や現代的な諸課題との関連	○	○	○	○	○	○	○	○	
	3 外国語活動からの系統性や中学校外国語科への発展性	○	○	○	○	○	○	○	○	
	4 自学自習や校種間連携に役立つ語彙・表現の一覧等の補助資料の充実	◎	○	○	○	○	○	○	○	
7 基本人権の尊重や道徳性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。	1 人権教育の推進	○	○	○	○	○	○	○	○	
	2 道徳教育の推進	○	○	○	○	○	○	○	○	
8 表記や表現について、文章や挿絵、写真等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成などについて配慮がされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。	1 文字や挿絵、写真等の適切さ、正確性、使いやすさの工夫	○	○	○	○	○	○	○	○	
	2 ユニバーサルデザインの視点	○	○	○	○	○	○	○	○	
	3 装丁や編集の適切さ、堅牢性の工夫	○	○	○	○	○	○	○	○	
	4 用紙、インク等の環境面の配慮	○	○	○	○	○	○	○	○	

【外国語】観点別資料

【選定の観点1】

基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る工夫・配慮がされていること。

発行者名	2 東書	9 開隆堂	11 学図	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
	<p>○音声・動画の視聴後のリスニングにより各単元での新出表現の理解を深める展開や、複数単元での既習事項を繰り返し活用する言語活動が設定されている。また、単元末では「Step1・2・3」と学習手順を具体的に示した言語活動が取り入れられており、基礎的・基本的な知識・技能の習得が図りやすいよう工夫されている。</p> <p>○各単元において学習到達目標が明示されるとともに、別冊には単元ごとの学習到達目標と振り返り欄が設定されており、児童が見通しをもちながら学習への意欲を高める工夫がなされている。</p>	<p>○各単元の新出表現についてリスニング・チャンツ・ゲームを通じて理解を深める流れにするとともに、単元の学習内容を踏まえた「Project」が設定されているが、学年末の自己紹介や世界で活躍する自分になりきる言語活動等の設定が不自然で、児童に取り組む必然性を感じさせにくく、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図りづらい。</p> <p>○卷頭に各単元の学習到達目標がロードマップ形式で示されているが、学習計画やめあてが示されていないため、学習の見通しをもった主体的な学びにつなげにくい。</p>	<p>○新出表現を動画で視聴した後に、複数回設定されたセクションでのリスニングで理解を深める構成や、学年末に全単元での既習事項を活用した言語活動を取り入れるなど、基礎的・基本的な知識・技能の習得が図りやすい。</p> <p>○単元導入時に観点別の単元目標を示すとともに、ロードマップ形式での「学習の進め方」、学習進度確認欄が設けられているが、学習到達目標が併記されていないため、児童にとっては、「英語で何ができるようになるのか」が分かりづらく、学習の見通しが立てづらい。</p>	<p>○単元構成を「HOP」・「STEP」・「JUMP」で1ユニットとし、ユニットごとの「Presentation」では、既習事項を活用したり取りや発表を行う構成になっている。また、発表については、対象をグループから学級全体と習熟を深める2段階構成とするなど、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得が図りやすいよう工夫され、優れている。</p> <p>○ユニット内の「Lesson」において学習到達目標が示され、目標を達成するための言語活動に向け学習が展開されているが、その過程が紙面からは読み取りづらく、児童が学習の見通しをもちにくい。</p>	<p>○動画の視聴やリスニングを通じて、新出表現についての理解を深める構成となっているが、複数単元の既習事項を活用する言語活動の設定がなく、基礎的・基本的な知識・技能の習得への工夫が不十分である。</p> <p>○卷頭に年間の学習目標が示され、単元導入においても学習内容又は学習到達目標が示されているが、学習計画やめあてが示されていないため、学習の見通しをもった主体的な学びにつなげにくい。</p>	<p>○紙面やアニメーション視聴等から児童が新出表現の意味や使い方を推測・理解する活動が取り入れられるとともに、学期末には複数単元での既習事項を活用する場面を設けたり、既習事項も繰り返し活用したりするなど、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れるよう工夫されている。</p> <p>○単元導入時に学習到達目標が示され、単元末には「Part」ごとの学習到達目標に対する振り返りと「学習した英語をどんな場面で使いたいか」を記述する振り返り等が設定されており、優れている。また、単元末の3つの視点に沿った自己評価による振り返りなど、児童が見通しをもって主体的に学習できるよう工夫され、優れている。</p>	<p>○単元導入時に新出表現の意味や使い方を推測・理解する活動が取り入れられるとともに、学期末には複数単元での既習事項を活用する場面を設けたり、既習事項を各単元で繰り返し活用したりするなど、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れるよう工夫されている。</p> <p>○単元導入時に学習到達目標が示され、単元末には「Part」ごとの学習到達目標に対する振り返りと「学習した英語をどんな場面で使いたいか」を記述する振り返り等が設定されており、優れている。また、卷末の「CAN-DO List」においても領域別に到達状況を学年末に確認することができ、児童が学習の定着を意識できるよう工夫されている。</p>

【選定の観点2】

適切な場面設定のもと、既習事項等を活用しながら、言語活動を行うための思考力・判断力・表現力等を育成する工夫・配慮がされていること。

発行者名						
2 東書	9 開隆堂	11 学図	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
<p>○単元導入時に示された学習到達目標や紙面構成から、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等が想像しやすくなっている。</p> <p>○既習・新出表現等を活用し、その場でやり取りをする活動が豊富に設定されるとともに、発表前に話す文の順を入れ替えることや、発表内容に付け足して話す例等が示されているため、児童が情報を整理して発表することができるなど、思考力・判断力・表現力等を育成する工夫が優れている。</p> <p>○友達の発表原稿や巻末絵本で文を推測しながら読む活動ができるように工夫されているが、文中の語句を書く活動や単語を並び替えて文を作る活動が少ないと、語順を意識しながら書く力を育成する上での工夫が不十分である。</p>	<p>○単元導入時に示された学習到達目標や紙面構成から、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等が想像しやすくなっている。</p> <p>○既習・新出表現等を使い、その場でやり取りをする活動が設定されているが、書く内容がすでに示されている発表原稿が多いため、思考しながら情報を整理し、自分の伝えたいことなどを形成する力を育成する上での工夫が不十分である。</p> <p>○単元で音声に慣れ親しんだ表現を読んでから、書いたり考えたりする工夫や、書き写す活動が設定されているが、語順を意識させる活動が「ふろく」として巻末に設定されているため、単元学習での活用が図れず、語順を意識しながら書く力を育成する上での工夫が不十分である。</p>	<p>○単元導入時に示された学習到達目標や紙面構成から、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等が想像しやすくなっている。</p> <p>○既習・新出表現等を使い、その場でやり取りをする活動が設定されているが、「Lesson」内のセクションを組み合わせた言語活動が少ないため、対話を続ける力を育みづらい。また、書く内容がすでに示されている発表原稿が多く、思考しながら情報を整理し、自分の伝えたいことなどを形成する力を育成する上での工夫が不十分である。</p>	<p>○「Lesson」や「Presentation」に示された言語活動には、コミュニケーションを図る必然性を児童が感じづらい設定となっているものがある。</p> <p>○各「Lesson」において新出表現等とあわせて既習事項も活用しながら、その場でやり取りをする活動が設定されるとともに、モデル文が複数示され、単元によっては話す文の順序等が異なるため、児童が情報を整理して発表することができるなど、思考力・判断力・表現力等の育成に向けた工夫がなされている。</p> <p>○文字を追いながら英語を聞いたり読んだりする工夫や、児童になじみのある物語を楽ししながら、意味を推測する工夫がみられる。書く活動においては、音声で慣れ親しんだ語句や表現を書き写す活動が設定されるなど工夫されており、単語カードを並べ替えるなどの活動がないため、語順を意識しづらい。</p>	<p>○単元導入時に示された学習到達目標や紙面構成から、コミュニケーションを行なう目的や場面、状況等が想像しやすくなっている。</p> <p>○新出表現等とあわせて、既習事項も活用しながら、その場でやり取りをする活動が設定されるとともに、モデル文が複数示され、単元によっては話す文の順序等が異なるため、児童が情報を整理して発表することができるなど、思考力・判断力・表現力等の育成に向けた工夫がなされている。</p> <p>○文字を追って読む力、語順を意識しながら読みながら音声で慣れ親しんだ語句や表現を読むことや、他教科等でなじみのある物語を聞いて推測しながら読むといった活動に工夫がなされているが、書く活動においては、語順の違いに気付く活動が少なく、また、段階を追って書く力を育成する上での工夫がみられない。</p>	<p>○単元導入時の紙面は、単元末でのコミュニケーション場面や状況等について説明があり、絵や写真から想像できるよう工夫されている。</p> <p>○新出表現等とあわせて、既習事項を活用しながら、その場でやり取りをする活動が設定されている。また、単元末の学習到達目標を意識した言語活動を繰り返すとともに、各「Step」で音声に慣れ親しんだ語句や表現を一文書いた上で、発表に向けて原稿作成するなど、思考力・判断力・表現力等の育成に向けた工夫がなされている。</p> <p>○物語を聞きながら内容を推測したり、文字を追って読んだりする活動ができるよう工夫されているが、語順に関する学習が系統的に設定されていないことや、文中の語句を書き写す活動も限られているなど、語順を意識しながら書く力を育成する上での工夫が不十分である。</p>	<p>○単元導入時の紙面では、コミュニケーションの場面や状況等について説明があり、絵や写真から想像できるよう工夫されている。</p> <p>○新出表現等とあわせて、既習事項を活用しながら、その場でやり取りをする活動が設定されている。また、単元末の学習到達目標を意識した言語活動を繰り返すとともに、各「Step」で音声に慣れ親しんだ語句や表現を一文書いた上で、発表に向けて原稿作成するなど、思考力・判断力・表現力等の育成が図れるよう工夫され、優れている。</p> <p>○物語を聞きながら内容を推測したり、文字を追って読んだりする活動ができるよう工夫されているが、語順に関する学習が系統的に設定されていないことや、文中の語句を書き写す活動も限られているなど、語順を意識しながら書く力を育成する上での工夫が不十分である。</p>

【選定の観点3】

相手や他者の理解に配慮するなど、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う工夫がされること。

発行者名						
2 東書	9 開隆堂	11 学図	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
<p>○相手に配慮した聞き方の具体例や対話の時に使用できる表現が「Tips」に取り上げられている。</p> <p>○5年生当初に「あなたが英語を使って将来したいこと」を書き、6年生の学年末に改めて、「将来、英語を使ってどのようなことをしてみたいか、話し合おう」で考察させるなど、児童が生涯にわたって継続して英語を育成する上での工夫がみられる。</p> <p>○「Over the Horizon」など、外国の文化等に関する記述が充実し、外国と自分の生活とを比較する場面が設けられるなど、物事の捉え方や考え方の多様性に気付く工夫がなされている。</p>	<p>○「発表するときのポイント」や「聞くときのポイント」が示されている。</p> <p>○両学年とも、年度末に「あなたは、英語でどんなことができるようになりましたか」を記述させ、6年生では「将来、英語を使ってどのようなことがしたいですか」と問うなど、児童が生涯にわたって継続して英語を育成する上での工夫がみられる。</p> <p>○日本の正月と外国の正月の比較や、外国の料理と日本の料理の共通点や相違点を考える活動で、それぞれの良さにふれる内容が取り上げられている。</p>	<p>○相手や他者の理解に配慮させる表記は特にない。</p> <p>○6年生巻末では5・6年生の学習を振り返り、また、6年生最後の単元末では中学校での学習内容を知って今後の学習を見据えるなど、児童が生涯にわたって継続して英語を育成する上での工夫がみられる。</p> <p>○外国の学校の時間割について知る活動などを通じて、それぞれの国について考えたり認めたりすることへつなげている。</p>	<p>○「JUMP」の「やり取り」や「発表」を行う場面では、それについて、相手意識を働かせるために「Tips!」が示されている。</p> <p>○各「JUMP」末で「次は、どんなふうをして活動したいですか」と問い、また、6年生最後には「中学校では、どんなふうをして活動したいですか」と問うなど、児童が生涯にわたって継続して英語を育成する上での工夫がみられる。</p> <p>○外国の文化等が取り上げられ、それぞれの国についての理解促進につなげている。</p>	<p>○巻頭に「コミュニケーションをとるときに、大切にしたいこと」が明示されるとともに、「Let's Think」には相手意識を働かせる活動が設定されている。</p> <p>○両学年とも、年度当初に「あなたが英語ができるようになりたいこと」を記述する活動が設定され、児童が生涯にわたって継続して英語を育成する上での工夫がみられる。</p> <p>○外国の紹介を視聴後、どの国に行って何をしたいか考える活動があり、それぞれの国の様子を捉えたり良さを考えたりすることにつなげている。</p>	<p>○各单元の対話での一言感想等が「Response」で示され、2学年ともに「言葉について考えよう」で具体的な場面を想定し、相手に配慮することやコミュニケーションの見方・考え方を働かせることについて、児童に具体的に考えさせる設定がなされ、優れている。</p> <p>○巻頭の「英語を使ってできることを増やしていきましょう」を受けて、巻末のすぐや「学びのパスポート」ができるようになったことが確認でき、また中学校の学習内容も具体的に示すなど、児童が生涯にわたって継続して英語を育成する上での工夫がみられる。</p> <p>○外国の小学生の一日の生活を取り上げ、自分との共通点や相違点について考える活動が複数用意されるなど、物事の捉え方や考え方は多様であることへの気付きを促す工夫が図られている。</p>	<p>○相手意識を働かせた伝え方を考える場面が設定され、相手や他者の理解に配慮しながらやり取りをすることを促そくしている。</p> <p>○2学年間を通じた全单元において、「英語で言いたいけど言えなかったこと」・「もっと知りたいと思ったこと」・既習事項を「どんな場面で使いたいか」といった振り返りが設定されており、児童が生涯にわたって継続して英語を育成する上での工夫がみられる。</p> <p>○同じ記号でも国や地域によって違う意味をもつことがあるなど、違いを知ることを契機に他の国のこと調べ、多様な文化を理解することへの手立てとなっている。</p>

【選定の観点4】

5領域別の目標と学習内容を効果的に関連付ける工夫がされていること。

発行者名						
2 東書	9 開隆堂	11 学図	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
<p>○単元の前半にゲームやチャンツで言語材料を練習する活動が設定されており、その後の言語活動につながるように工夫されている。</p> <p>○聞いたり話したりする活動を踏まえ、語句や表現を書き写したり読んだりする活動が順を追ってできるように工夫されているが、単元末の活動が学年別に「やり取り」と「発表」に区別されているため、2学年間でそれぞれの力をバランスよく育成する指導がしづらい。</p> <p>○形や手の動かし方が似ている活字体ごとに書いたり、ビンゴゲームで活字体を読んだり書いたりできるように工夫されるとともに、音の認識を深める活動が継続的に設定されており、推測して読む力につながる工夫がみられる。</p>	<p>○各単元でチャンツやゲーム、視聴教材で言語材料を聞いたり話したりする活動を繰り返し、その後の言語活動につながるように工夫されている。</p> <p>○聞いたり話したりする活動を踏まえ、語句や表現を書き写したり読んだりする活動が順を追ってできるように工夫されるとともに、単元末に「やり取り」をした後、单元末に「発表」を設定している単元が多く、工夫がみられる。</p> <p>○単元後の「文字に慣れよう」で活字体の読み方・書き方を学んだ後、音の認識を深め、単語の書き写しや読み、文の読みや書き写しと、文字と音の認識を深めるために系統的に学習できるよう構成されており、優れている。</p>	<p>○チャンツによる言語材料の練習を踏まえ、対話を視聴し、自分の考えや気持ち等に該当する表現について音声を聞いた後に真似て言う活動を行った上で児童同士の言語活動を行うなど工夫されている。</p> <p>○聞いたり話したりする活動を踏まえ、語句や表現を読んだり書き写したりする活動が順を追ってできるよう工夫されており、「やり取り」「発表」を各「Lesson」や「Presentation」ができるよう工夫されているが、5年生の单元末の活動には「やり取り」がやや多いため、2学年間で「やり取り」「発表」の力をバランスよく育成する指導がしづらい。</p> <p>○活字体の読み方・書き方に関する指導を5年生当初に行なった後、各单元末の「Alphabet Corner」で文字の形への認識を深め、定着を図る工夫がみられるとともに、文字と音の認識を深めるコーナーが設定され、学習した単語を单元末に推測して読むよう工夫されている。</p>	<p>○各「Lesson」では聞く活動が重視されており、少しずつ話す活動を経て言語活動ができるように工夫されている。</p> <p>○聞いたり話したりする活動を踏まえ、語句や表現を読んだり書き写したりする活動が順を追ってできるよう工夫されており、「やり取り」「発表」を各「Lesson」や「Presentation」ができるよう工夫されている。</p> <p>○5年生当初や「ふろく」で活字体の読み方・書き方を学習するとともに、「Sound Chant」を経て「Enjoy Reading」で読むことにつなげるなど、文字と音の認識を深めるための系統的な展開の工夫がみられる。また、「Enjoy Reading」はフォントも行間も拡大するなど、レイアウトの工夫がみられ、優れている。</p>	<p>○各単元でチャンツや歌、ゲームで言語材料を練習する活動が設定されており、その後の言語活動につながるように工夫されている。</p> <p>○聞いたり話したりする活動を踏まえ、語句や表現を書き写したり読んだりする活動が順を追ってできるよう工夫されるとともに、5年生单元末に「やり取り」「発表」がバランスよく設定され、6年生は「やり取り」後に「発表」を設定している単元が多く、工夫がみられる。</p> <p>○各单元「STEP1・2」ともに言語材料の練習をチャンツ等で行った上で言語活動に移行するなど工夫されている。</p>	<p>○各単元で、聞く活動と話す活動を繰り返し、单元末に言語活動ができるよう工夫されている。</p> <p>○聞いたり話したりする活動を踏まえ、語句や表現を書き写したり読んだりする活動が順を追ってできるよう工夫されるとともに、[やり取り]をした後、单元末に[発表]が設定している単元が多く、[やり取り]後に[発表]を設定している単元が多く、工夫がみられる。</p> <p>○「Let's Read and Write」で活字体の読み方・書き方を学んだ後、単語の書き写しを経て音の認識を深める学習をし、最後に「Let's Read」で英語を聞きながら読む学習ができるよう工夫されている。</p>	

【選定の観点5】

外国語やその背景にある文化に対する理解を深め、日本語と日本文化の豊かさに気付く教材や活動が適切に取り上げられていること。

発行者名						
2 東書	9 開隆堂	11 学図	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
<ul style="list-style-type: none"> ○「Over the Horizon」で外国と日本の文化や言語の比較を通じて、児童が言語の奥深さ等を考察できるよう3種類の教材が用意されるなど、工夫がなされ、優れている。 ○日本や外国の特色を楽しく学ぶコーナーが設定されるなど、児童の視野を広げることができる活動が設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元導入時に外国と日本の行事等を比較するなど、児童の世界への視野を広げる工夫がなされている。 ○自分の町を紹介したり、日本各地の名所等について考察を深めたりする活動等が設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各「Lesson」に設定されている「コラム」では、外国の文化や風習、その背景にある思いにふれ、児童が多様な考え方方に気付き、豊かな心情が育つよう配慮されている。 ○6年生巻末で既習事項を活用しながら、日本各地を案内する活動等、日本文化等について考察する活動が設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本が外国から取り入れた言葉など、外国語と日本語の両者を比較することを通じて、児童の言語への興味を高める工夫がなされている。 ○日本文化を伝える活動や外国の文化を知る活動が設定されるとともに、世界の「ことば」を考察するコーナーも設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「Let's Look at the World」において、外国の学校の様子や外語等について取り上げ、言語や文化を通じた世界とのつながりに気付けるよう工夫されている。 ○外国を友達に紹介するにあたり、日本地図を活用して名物・名所等を掲載するなど、日本の豊かな国土についての気付きを促している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元ごとの「World Tour」での動画視聴や「世界の友達」での既習事項を用いた言語活動等を通して諸外国の文化等に対する理解を深める工夫がなされている。 ○「Fun Time」において、日本語と英語による文構造の違いへの気付きを促す機会が設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元ごとの「Did you know?」において、外国の言語的・文化的な内容への気付きを促すとともに、多様な言語に関する視野を広げる工夫がなされている。 ○外国からの転校生への日本の紹介等、日本文化等について児童が考察できるような題材が設定されている。

【選定の観点6】

単元構成の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等との関連、また他校種等との接続について配慮されていること。

発行者名						
2 東書	9 開隆堂	11 学図	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
<ul style="list-style-type: none"> ○学年別のテーマ設定、外国語活動や中学校外国語科との接続を鑑みた補充・発展学習が工夫されている。自学自習や中学校での復習等に活用できるよう別冊が用意され、継続的な学習が展開できるよう、工夫され、優れている。 ○外国の自然環境・食糧自給率等、多分野にわたる題材を取り上げ、他教科等との関連が図られている。また、補助資料にはミシン目があり、児童が扱いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○5年生巻頭では3・4年生の活動の振り返りが設定されるとともに、「ふろく」では中学校への接続を意識し、6年生の学習内容を項目ごとに振り返ることができるよう工夫されている。 ○他教科等の学習と関連する単元にはアイコンが設定されるなど、学習にあたって教科横断的な視点をもちやすく工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語活動での既習事項の振り返りや、中学校生活を意識した単元の設定がされ、他校種等との接続が配慮されており、巻末に文字練習ページも設定されるなど、補助資料も工夫されている。 ○歴史上の人物紹介を聞く活動が設けられるなど、単元の中に他教科等との関連要素が設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各巻頭末に既習事項を振り返る場面が設定されるとともに、将来について展望する流れとするなど、中学校との接続を意図した活動が設定されている。 ○教科横断的な視点で、他教科等との関連付けがしやすい題材が設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校で学習したことを冊子「My book」の作成を通して振り返り、中学校でも自己紹介に活用できるよう小中接続の視点で工夫されており、優れている。 ○児童になじみの深い他教科の読み物教材の活用や防災など現代的な諸課題との関連も図られている。また、補助資料にはミシン目があり、児童が扱いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語活動の既習事項も繰り返し活用する単元構成の系統性や中学校の学習内容の紹介、文字練習用の補助資料など、他校種等との円滑な接続や自学自習の充実を図る工夫がなされている。 ○他教科等と関連付け、食物連鎖を題材に語順を意識したり、国や町の紹介を行ったりする工夫がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○5年生冒頭の外国語活動の既習事項を活用した言語活動の設定や、6年生での中学校生活に関する単元では、部活動の絵カードで言語材料の練習ができるよう補助資料が工夫され、他校種等との連携が意識されている。 ○グラフ作成など算数科と関連付けた学習など単元の中に他教科等との関連要素が設定されている。また、補助資料にはミシン目があり、児童が扱いやすい。

【選定の観点7】

基本的人権の尊重や道徳性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。

発行者名						
2 東書	9 開隆堂	11 学図	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
<ul style="list-style-type: none"> ○マララ・ユスフザイの言葉など「Over The Horizon」で外国の文化や暮らしを取り扱うなど、人権尊重、国際理解、異文化尊重等の心情と態度を育むよう配慮されている。 ○違いを認め協力する心情を育む読み物教材を取り上げるなど、道徳心を養うよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○障害者との共生に向け、ブランドドサッカーや車いすバスケットボールなど、人権尊重に配慮するなどの工夫がなされている。 ○外国の食事・名所・行事等を紹介するなど、異文化理解を促す題材が取り上げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○デンマークの公共交通におけるバリアフリーなど、高齢者や障害者との共生について考えることができるよう工夫されている。 ○マザー・テレサの言葉を引用し、平和や他者理解について考えることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読み物教材「The North Wind and Sun」で相互理解・寛容の心情を育てることができるよう配慮されている。 ○異文化理解を深めることに加え、食糧事情・水問題・環境問題等の題材が取り上げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「できることの木」を作成する活動や道徳教材を用いることで、自尊感情を高め、互いを尊重し、認め合う態度の育成につながるよう配慮されている。 ○異文化理解を深められるよう、外国の授業・生活の様子・名所・手話等を紹介する題材等が取り上げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会的弱者への配慮や国際手話の紹介など、個人の尊重や共生社会の実現に寄与する態度を養うよう工夫されている。 ○12人の外国の友達とのやり取りなど、異文化理解とともに国際親善の精神の涵養につながる工夫がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「Did you know?」で食事・文化・スポーツなど、日本と外国の話題を幅広く取り上げ、異文化理解を深めるよう工夫されている。 ○ピクトグラムの意味を考えることをきっかけに共生社会の実現について考察できるよう工夫されている。

【選定の観点8】

表記や表現について、文章や挿絵、写真等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成などについて配慮がされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

発行者名						
2 東書	9 開隆堂	11 学図	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
<ul style="list-style-type: none"> ○A4版で児童が親しみやすい豊富な写真・イラスト等を効果的に使用するとともに、4線もアルファベットをバランス良く書けるように工夫されている。 ○UDフォントなど支援を要する児童等への配慮や研究者により検証されたCUDの採用とともに、再生紙や植物油インキを使用し、造本も堅牢である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○A4版で幅が広く、写真・イラスト等が見えやすいレイアウト、コーナーごとの配色設定、独自フォントや4線も書きやすいよう配慮されている。 ○色覚特性の専門家による校閲がなされたCUDの視点からの児童への配慮とともに、環境に配慮した用紙や植物油インキを使用し、造本も堅牢である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○A4版で写真・イラスト等が大きく、中学校への接続を意識した独自の4線の採用など工夫されている。 ○専門家による監修を受けたCUD・UDフォントの採用とともに、環境に配慮した用紙や植物油インキを使用し、造本も堅牢である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○A4版で幅が広く、行間やイラスト等にゆとりがあるデザインとするなど、レイアウトの工夫がみられる。 ○配色だけでなく形等でも区別しやすいユニバーサルデザインを専門家の監修のもと配慮するとともに、環境にやさしい用紙と植物油インキを使用し、造本も堅牢である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○A4版で写真・イラスト等が多用され、家庭学習との連携が図りやすい4線も採用するなど工夫されている。 ○第三者機関の認証を受けたCUDやUDフォントにより、どの児童も学びやすいよう配慮されるとともに、環境にやさしい再生紙と植物油インキを使用し、造本も堅牢である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○A4版で大判イラストと写真を用い、学習しやすいようデザインされ、独自のフォントに対応した4線とするなど工夫されている。 ○図版上の文字表記の工夫等、全てのページで特別支援教育の専門家の監修を受けるなどの配慮とともに、環境に配慮した紙と植物油インキを使用し、造本も堅牢である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○A4版で行間にゆとりを持たせ、配色やデザインについて第三者機関の認証を受けるなど、必要な情報を伝達しやすいよう配慮・工夫されている。 ○UDフォントを採用するとともに、環境に配慮した再生紙や植物油インキを使用し、造本も堅牢である。

※CUD：カラー・ユニバーサル・デザイン、UDフォント：ユニバーサル・デザインフォント